

令和7年度入学試験 課題論文「出題意図」 (入試情報公開用)

食農学類 総合型選抜

地域社会貢献枠：

有機農業に関する資料を提示し、日本と世界を比較して日本の有機農業の現状を説明させるとともに、日本における有機農業生産者の生産意向と消費者の有機食品に対するイメージに関するアンケート結果の図を読み取り、日本の有機食品の市場を拡大させるための方策について論述させることで、資料の内容を正確に読み取る力（理解力）、資料を手掛かりに課題を検討する力（思考力）、論述する力（表現力）を総合的に評価する。

実践教育経験枠：

農作業死亡事故に関する3つの資料を提示し、近年の農作業事故の傾向を死亡事故の要因割合、事故死亡者数の推移から説明させ、事故を防ぐ取組について自身の経験と関連づけた論述を求めることで、資料の内容を正確に読み取る力（理解力）、体験と関連づけて課題を考察する力（思考力）、論述する力（表現力）を総合的に評価する。

令和7年度

課 題 論 文

農学群食農学類

(総合型選抜)

地域社会貢献枠

時間 90 分

+++++++ 注 意 事 項 +++++++

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けてはならない。
2. この問題冊子は表紙を含め6枚である。印刷の不鮮明な箇所などがある場合には、監督者に申し出ること。
3. 解答用紙の指定欄に、アルファベットを含む5桁の受験番号を必ず記入すること。
4. 解答はすべて別紙の解答用紙に横書きで記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には、何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

地域社会貢献枠

次の資料 1 から 3 を読んで、日本の有機農業の現状について世界と比較して説明しなさい。また、資料 1 から 5 を読んで、日本の有機食品の市場を拡大させる方策について、有機農産物の生産、有機食品の消費の両方の視点から問題点を記述した上で、あなたの考えを論述しなさい。(全体で 800 字以内)

※なお、有機食品とは、有機農産物、およびそれらから作られた食品の総称である。

[資料 1]

有機農業とは

日本では、平成 18 年度（2006 年度）に策定された「有機農業推進法^{注1}」において、有機農業を「化学的に合成された肥料および農薬を使用しないことならびに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。」と定義されています。

注 1 有機農業の推進に関する法律（平成 18 年法律第 112 号）

「有機農業の推進に関する法律」による有機農業の定義は以下のとおりです。

1. 化学的に合成された肥料および農薬を使用しない
2. 遺伝子組換え技術を利用しない
3. 農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する

農業生産の方法を用いて行われる農業です。

なお、国際的な委員会（コーデックス委員会^{注2}）が作成した「ガイドライン^{注3}」において規定した「生産の原則」では、以下のとおりです。

有機農業は、生物の多様性、生物学的循環および土壌の生物活性等、農業生態系の健全性を促進し強化する全体的な生産管理システムである。

注 2 コーデックス委員会とは、消費者の健康の保護、食品の公正な貿易の確保等を目的として、1963 年に FAO および WHO により設置された国際的な政府間機関。国際食品規格の策定等を行っており、日本は 1966 年より加盟。

注 3 有機的に生産される食品の生産、加工、表示および販売にかかるガイドライン（CAC/GL32-1999）。

[資料2]

日本と世界の有機農業の取組面積

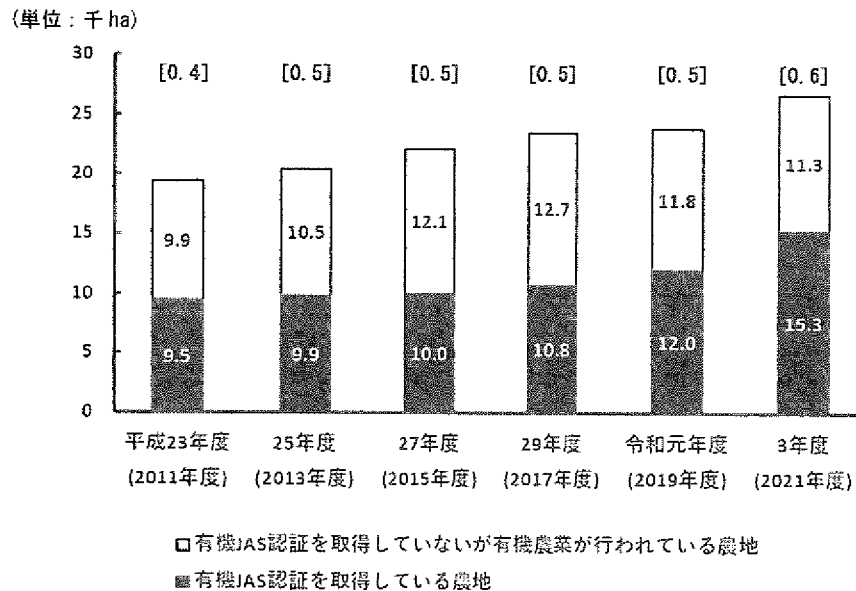


図1 日本の有機農業の取組面積

注1) 図中の[]内の数値は、耕地面積に占める有機農業取組面積の割合(%)である。

注2) 有機JAS認証を取得している農地とは、一定の基準を満たして国に認証された農地である。

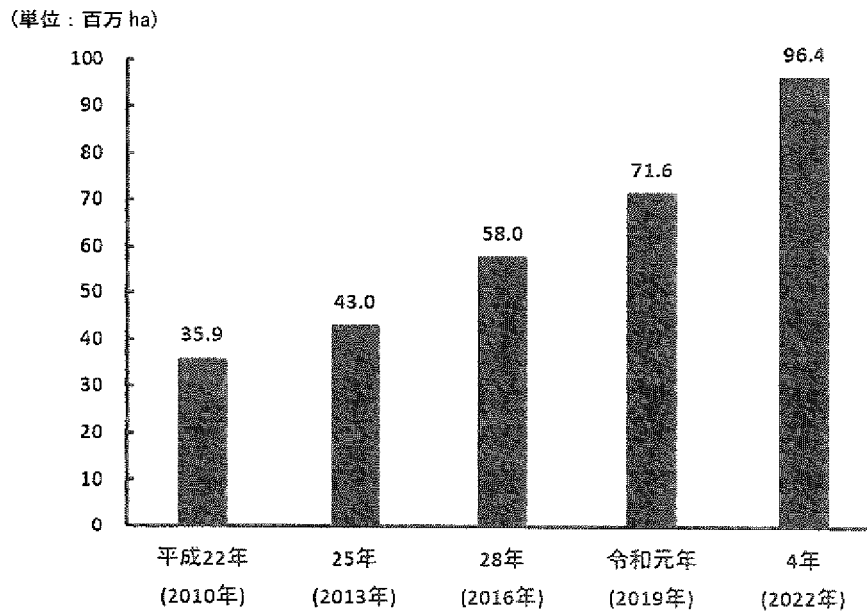


図2 世界の有機農業の取組面積

出典：農林水産省『有機農業をめぐる事情 令和6年5月』および『令和5年度 食料・農業・農村白書』を基に作成。

[資料3]

世界の有機食品購入額

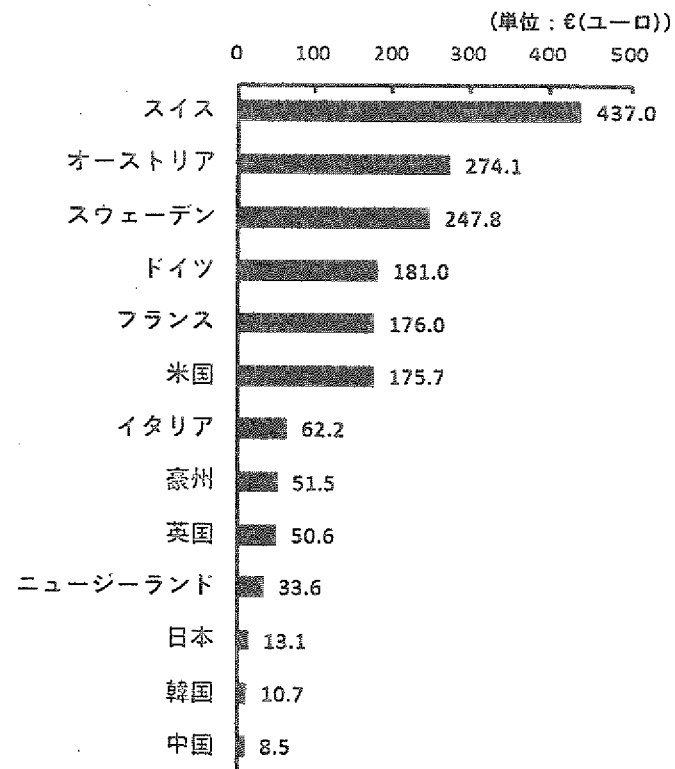


図3 国別の1人当たり年間有機食品購入額(令和4年(2022年))

出典: 農林水産省『令和5年度 食料・農業・農村白書』を基に作成。

[資料4]

日本で有機農業を営む生産者の意向

有機農業を営む生産者のうち、図4は、取組面積を拡大したい意向がある生産者に対するアンケート結果、図5は、取組面積を縮小したい・現状維持の意向がある生産者に対するアンケート結果を示したものである。

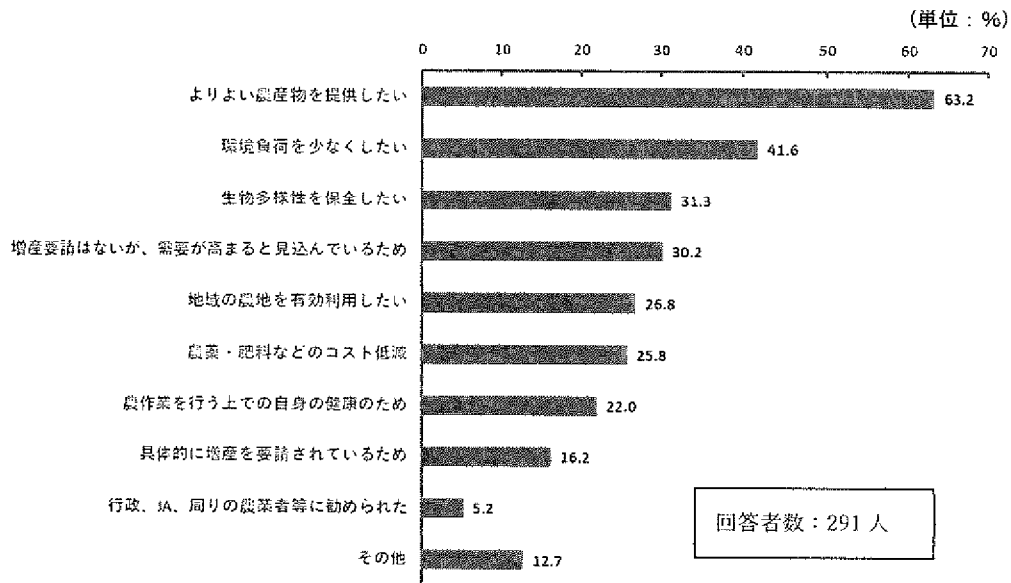


図4 有機農業の取組面積を拡大したい理由（複数回答）

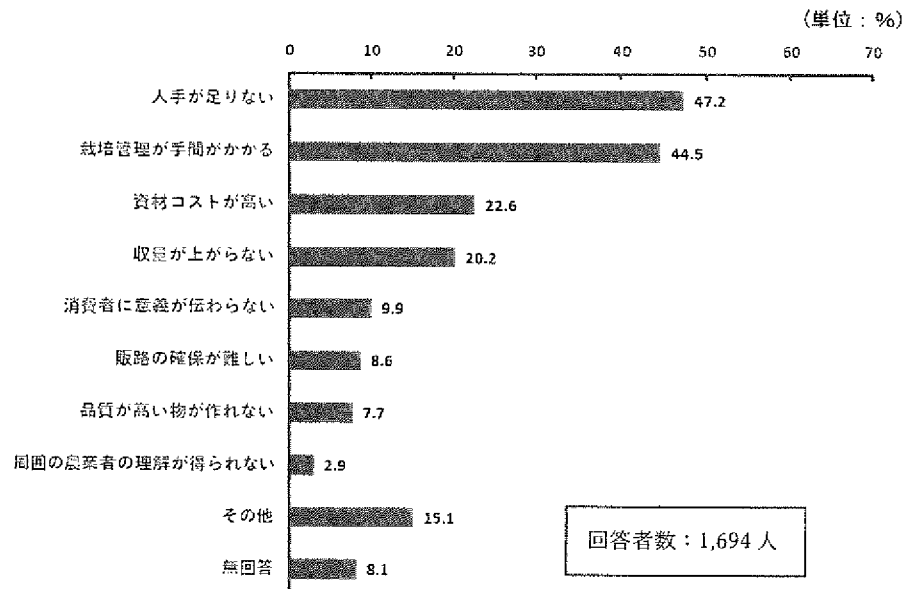


図5 有機農業の取組面積を縮小したい・現状維持の理由（複数回答）

出典：農林水産省『令和3年度 食料・農林水産業・農山漁村に関する意識・意向調査 有機農業等の取組に関する意識・意向調査結果』を基に作成。

[資料5]

日本の消費者の有機食品のイメージ

図6は、日本の消費者にアンケートを行い、有機食品を購入したことがある人について、購入している有機食品のイメージについて回答を得たものである。

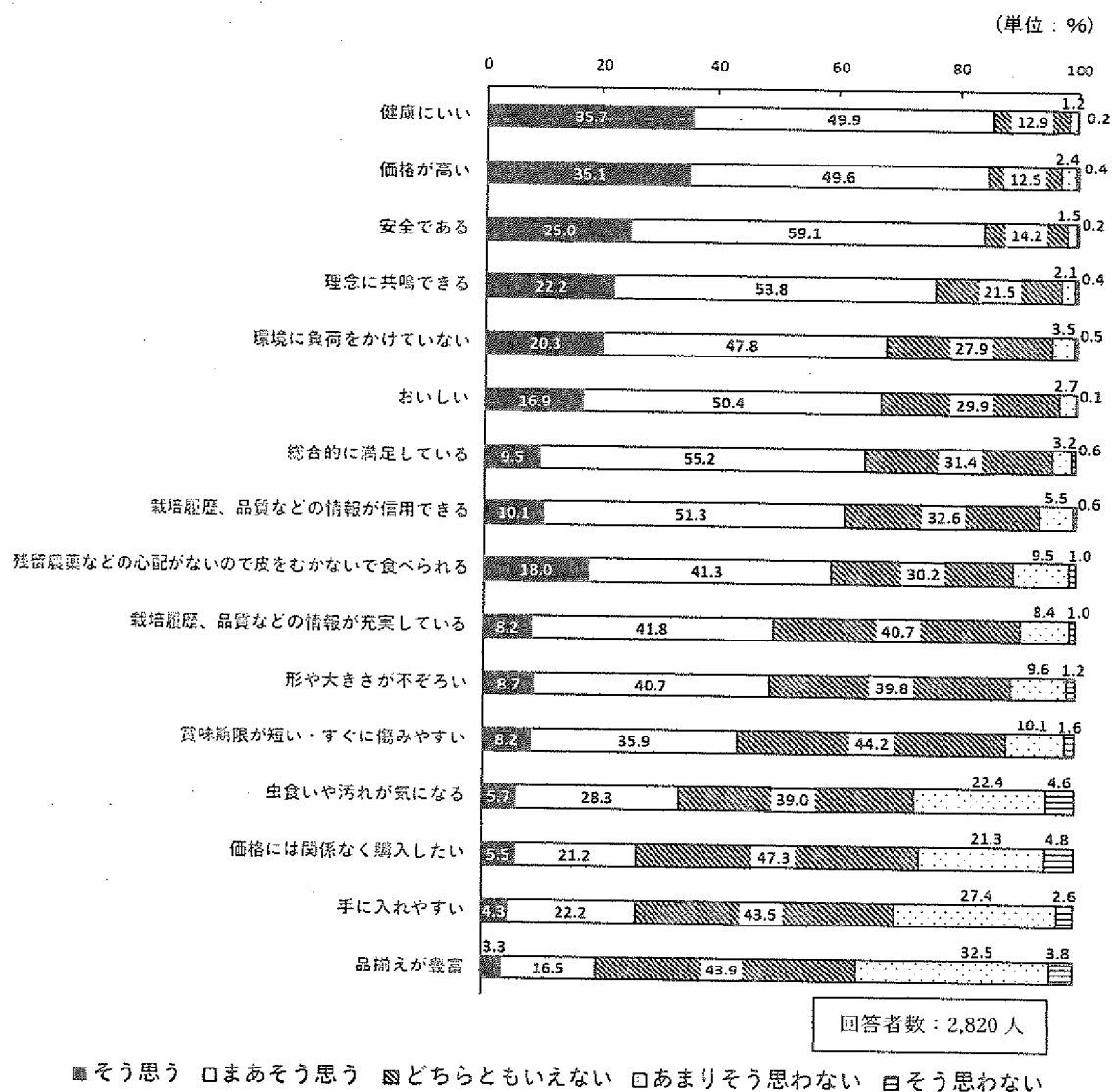


図6 購入している有機食品のイメージ

出典：農林水産省『有機食品の市場規模および有機農業取組面積の推計手法検討プロジェクト』を基に作成。

問題訂正

課題論文

1. 資料2の本文1行目について、以下のとおり下線部を差し替える。

[差し替え前]

図1は、「食料・農業・農村白書（令和6年度）」をもとに作成したものである。

[差し替え後]

図1は、「食料・農業・農村白書（令和5年度）」をもとに作成したものである。

2. 資料2の出典について、以下のとおり下線部を差し替える。

[差し替え前]

出典：農林水産省「食料・農業・農村白書（令和6年度）」を基に作成。

[差し替え後]

出典：農林水産省「食料・農業・農村白書（令和5年度）」を基に作成。

令和7年度

課 題 論 文

農学群食農学類

(総合型選抜)

実践教育経験枠

時間 90 分

++++++ 注 意 事 項 ++++++

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けてはならない。
2. この問題冊子は表紙を含め4枚である。印刷の不鮮明な箇所などがある場合には、監督者に申し出ること。
3. 解答用紙の指定欄に、アルファベットを含む5桁の受験番号を必ず記入すること。
4. 解答はすべて別紙の解答用紙に横書きで記入すること。
5. 解答用紙の評点欄には、何も記入しないこと。
6. 解答用紙は持ち帰らないこと。

実践教育経験枠

次の資料1から3を読んで、農作業死亡事故の傾向と特徴について、{} 内の4つの用語をすべて用いて説明しなさい。また、資料1，2を読んで、農作業に関わる事故を防ぐために農業従事者が行うべき方策を、あなた自身の経験と関連づけて論じなさい。(全体で800字以内)

{用語：高齢者，就業者10万人当たり，トラクター，農業従事者数}

【資料1】

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から公表することができませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から公表することができませんのでご了承願います。

〔資料2〕

図1は、「食料・農業・農村白書（令和6年度）」を基に作成したものである。このグラフは、令和4年（2022年）に発生した農作業死亡事故の要因別割合を示している。

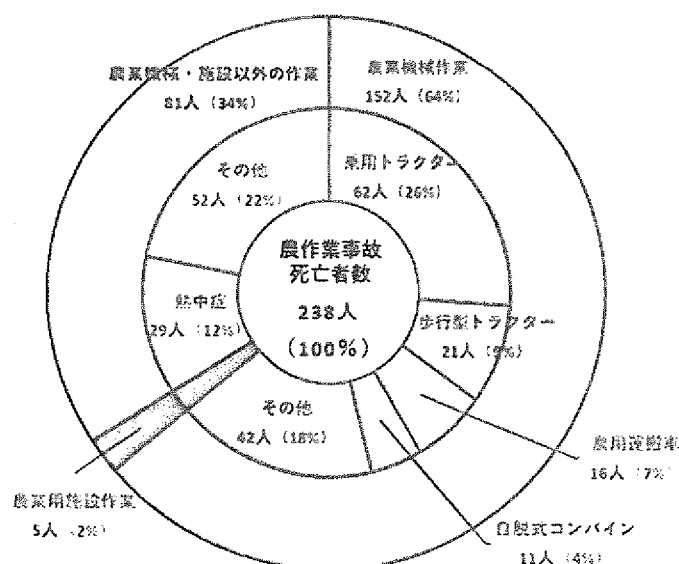


図1 農作業死亡事故の要因別割合

注1) 乗用トラクターとは、運転者がトラクターの運転席に座り、ハンドル、レバー等を操作して、土を耕す等の作業を行うものである。歩行型トラクターとは、運転者が歩きながらレバーを操作して、作業を行うものである。

注2) 農用運搬車とは、運転者が運転席に座り、ハンドル、レバー等を操作して、収穫物等の運搬に使用されるものである。

注3) 自脱式コンバインとは、運転者が運転席に座り、ハンドル、レバー等を操作して、イネやムギの収穫、脱穀作業等を行うものである。

出典：農林水産省『食料・農業・農村白書（令和6年度）』を基に作成。

[資料3]

図2, 3は, 農林水産省農産局が取りまとめた農作業死亡事故調査を基に作成したものである。図2は, 平成25年度(2013年度)から令和4年度(2022年度)までの就業者10万人当たり事故死亡者数の推移を示している。また, 図3については, 平成25年度(2013年度)から令和4年度(2022年度)までの農作業事故死亡者数の合計人数の推移を示している。

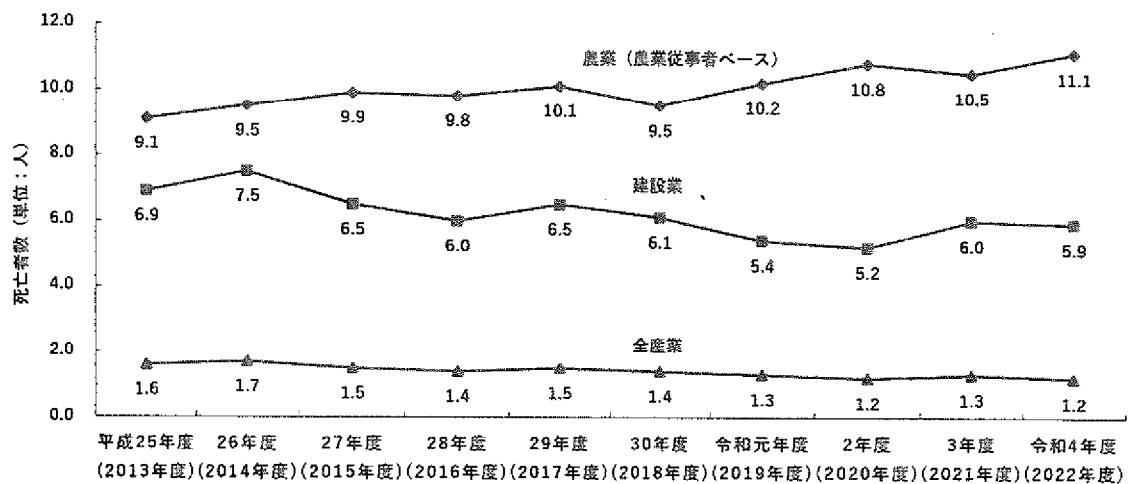


図2 就業者10万人当たり事故死亡者数の推移

出典: 農林水産省『令和4年に発生した農作業死亡事故の概要』を基に作成。

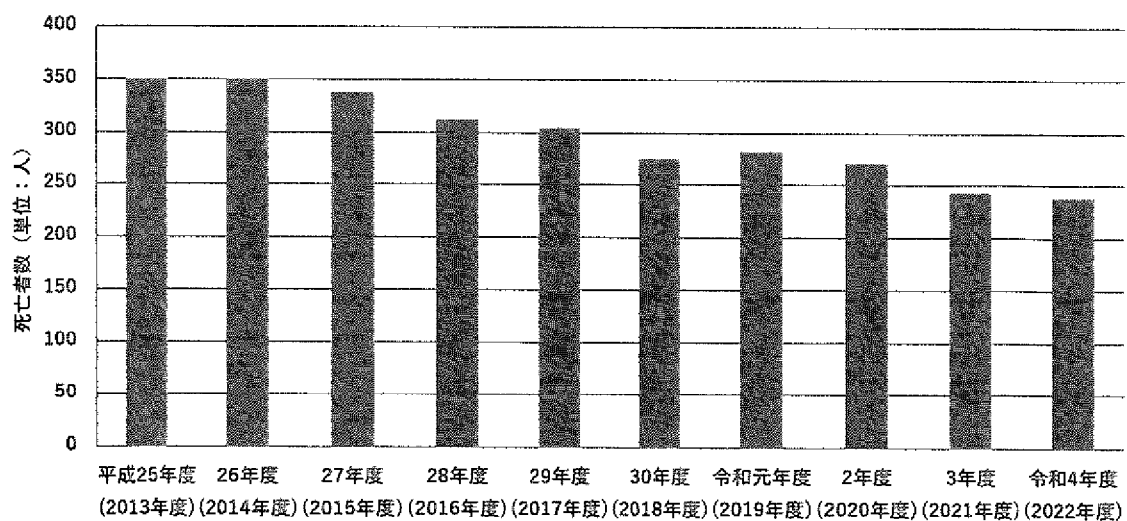


図3 農作業事故死亡者数の推移

出典: 農林水産省『就業者10万人当たり死亡事故発生者数推移』を基に作成。